

実践1

「チャンプ本」をめぐろう——魅力的な提案のしかたを考える

使用教材

「魅力的な提案をしよう」(二年)「話すこと・聞くこと」

山梨大学教育学部附属中学校教諭 富高勇樹

1 はじめに

生徒が、学習したことや身につけた力を「日常生活に生かせようだ・生かすことができた」と実感できるようにしたい。そして、それが将来の社会生活で生きて働く力になることを実感させたいと願い、日々の授業に取り組んでいる。なぜなら、そのような実感を伴ったときに、学習内容や身につけた力が意味のあるものとなると考えるからである。

本実践では、特に「話す能力」に焦点を当てることとした。それは、第二学年の夏休み明けから、三年生による生徒会活動の引き継ぎが本格的に行われ、部活動や委員

会活動、生徒会役員選挙など、日常生活の中で提案をしたり、自分の考えを話したりする機会が増えてくるからである。また、プレゼンテーションの技術だけでなく、目的意識や相手意識をもった表現は、将来の社会生活の中で必要とされる力でもある。

そこで、本実践では、生徒が目的意識と相手意識をもって活動に取り組めるように、「ビブリオバトル」(※)という言語活動を設定した。ビブリオバトルは、聞き手がいちばん読みたくなった「チャンプ本」を決定するところにポイントがある。話し手は、人から評価されるという緊張もあるが、「自分が選んだ本の魅力をしっかりと伝えたい、チャンプ本に選ばれたい」という思いから

相手や目的を意識した活動を行うことになる。また、聞き手は、プレゼンテーションを評価するという責任があるため、それぞれのプレゼンテーションのよしあしや共通点・相違点を意識しながら聞く必要がある。つまり、話し手・聞き手ともに、目的が明確であるという利点がある。

自分の選んだ本の魅力を紹介する活動を通して、聞き手を想定し、論理的な構成や展開を考えて話す力を身につけさせたい。そして、こうした活動は、将来的にも生きて働く力となることを十分意識させたい。

2 指導計画(全五時間)

▼目標

○聞き手を想定し、論理的な構成や展開を考えて話す。

○話し合い活動を通して、わかりやすいプレゼンテーションの構成や展開について考えを深める。

○相手や目的に応じて、話の形態や展開に違いがあることを理解する。

▼展開

第一次(一時間)

・プリントとビブリオバトルの映像を見て、

学習の見通しをもつ。

第二次(三時間)

・紹介する本を選んで、情報を集め、整理する。

・相手を想定して、プレゼンテーションの構成メモを作成し、構成や展開を工夫して話す練習をする。

・グループに分かれ、ビブリオバトルを行う。

第三次(二時間)

・チャンプ本に選んだプレゼンテーションをグループで分析し、論理的な構成や展開について考え、話し合う。

3 指導の工夫・学習の実際

①活動にビブリオバトルを設定する

ビブリオバトルには公式ルールがある。本実践では、何を話してよいかわからない生徒が人前で話すことに苦手意識を感じてしまうことを避けるため、公式ルールを一部変更して、本の紹介時間を三分に短縮することにした。

「話すこと」に焦点化して、読解を苦手とする生徒でも紹介する情報を収集しやすいように、読解の観点(既習の学習用語)やその本にまつわる自身のエピソードなどを考えさせたり、他の本と比較させたりと、

読むことを助けるような手立てを用意して、全員がビブリオバトルに臨めるようにした。

②構想ワークシートをもとに提案する

本実践では、発表原稿ではなく、構想ワークシートだけを用意させるようにし、発表者は、相手や状況に応じて、話すことや話し方を変更してプレゼンテーションを行ってもよいことにした。スピーチやプレゼンテーションで大事なものは、聞き手の反応を見ながら、臨機応変に対応することだからである。

また、聞き手の反応を想定する際、それらを具体的な言葉(例えば、「わたしにもある」「えっ、意外だ」「続きが気になる」など)で考えさせることにした。より具体的にイメージさせることは、構成や内容を考えたり、情報を整理したりするための有効な手立てとなったと思われる。

③振り返りにICT機器を活用する

前述のように、本実践では、第三次で、プレゼンテーションを分析する活動を行った。より効果的に振り返りを行うために、ICT機器を活用して、発表を可視化できるよう工夫した。メモを取りながら聞くことも必要だが、ついメモを書くことだけに

集中してしまう生徒もいる。聞く場面では聞くことに集中できるように、今回、振り返りの時間は別に設定した。

④「協働」を学習過程に位置づける

本校国語科では、どの学習でも「協働」する活動を位置づけている。協働において、自分とは異なる考えに出会い、自他の考えを相互吟味することで、考えの深化が期待できると考えている。

本実践では、第二次・第三次で協働を位置づけた。例えば、第二次では、ビブリオバトルを行うグループとは別のグループの仲間を聞き手として話す練習を行わせた。次ページのワークシートの一段目が練習段階の構想、三段目が本番の構想である。

活動後、生徒は聞き手を引きつける構成の工夫を取り入れたり、聞き手をわくわくさせるように、内容を変更したりしていた。また、授業後の生徒の感想では、「何を伝えたいのかわかりにくいという意見を聞いて、初め、自分の述べたいことをただグラフと述べていたことに気づきました。そこで、情報を整理し、大切な情報に絞ることが必要だとわかりました。」と記述している。

このように協働は、考えの深化に有効な

4
おわりに

自分が伝えたい本の魅力

キーワードでプレゼンテーションの構成メモを作ろう

日常にかかっている白い日陰

自分が伝えたい本の魅力 キーワードでプレゼンテーションの構成メモを作ろう 自分から出てくる 相手の目線	小さは2人の視点から書かれていて、ほっとして、自分を信じ、自分の宿題を道に進めれば良い、ということ 教えることが、
自分のプレゼンテーション	自分のプレゼンテーション
問題提起 私たちの生活とからめて話を する。 あなたは、冒険をしたと思ったことは ありますか？ 日々の生活からいつだって思っ たことはありますか？ のあります。 ①理由が分からないと思う。	問題提起 あなたは、日々の生活からいつだって思っ たことはありますか？ 日々の生活からいつだって思っ たことはありますか？ のあります。 ②あります。 ③理由が分からないと思う。
冒険に出る物語 ①エイトマンとエイトマンが、エイトマン の冒険に出る物語 ②エイトマンの視点から書かれていて、ほっとして、自分を信じ、自分の宿題を道に進めれば良い、ということ ③エイトマンの視点から書かれていて、ほっとして、自分を信じ、自分の宿題を道に進めれば良い、ということ	冒険の内容や、エイトマンの冒険の中から自分が 最も心に残った冒険をま い、その結果はどうか とエイトマンによつて、結果はどうか とエイトマンによつて、結果はどうか ④エイトマンの視点から書かれていて、ほっとして、自分を信じ、自分の宿題を道に進めれば良い、ということ ⑤エイトマンの視点から書かれていて、ほっとして、自分を信じ、自分の宿題を道に進めれば良い、ということ
引用	引用 ⑥エイトマンの視点から書かれていて、ほっとして、自分を信じ、自分の宿題を道に進めれば良い、ということ ⑦エイトマンの視点から書かれていて、ほっとして、自分を信じ、自分の宿題を道に進めれば良い、ということ

▲構想ワークシートの例

溝上先生が見る
社会生活へ
つなげるポイント

この実践に限らず、日常の授業の中でも、「話す」「発表する」「聞聴く」といった言語活動を含むアクティブラーニングを取り入れてもらえたらと思います。日常化こそが、社会へつなげる最強法則です。

実践2

「北の国から」発信 しよう

「他の地域の人にとっての未知を考える

使用教材

「多様な方法で情報を集めよう」(二年／「書くこと」)

北海道札幌市立向陵中学校教諭

高橋伸

1 はじめに

「他の地域の人にとって、何が未知なのか」を捉えることはなかなか難しい。け

2 指導計画（全五時間）

▼目標

○自分が住む地域についての情報をさまざま
 な方法（学校図書館、インターネット、
 身近な人への取材）で集め、自分の考え

▼展開

第一時

- ・学習の見通しをもち、既習の事柄とのつながりを考える。
- ・教科書を読んで、学習の流れを捉える。
- ・学校図書館やインターネットを使って、記事にする情報を複数集める。身近な人への取材も試みる。

をまとめる。

○新聞の下書きを読み合い、情報の使い方や構成のしかたを交流することで、よりよい作品を作り上げる。

▼展開

第一時

- ・学習の見通しをもち、既習の事柄とのつながりを考える。

- 教科書を読んで、学習の流れを捉える。

- ・学校図書館やインターネットを使って、

記事にする情報を複数集める。身近な人への取材も試みる。

第二時

- ・収集した情報を交流し、テーマを決める
- ・本物の新聞から学んだ新聞のルールをもとに、記事の構成や見出しを考える。

第三時

- ・集めた情報をもとに下書きをする。

第四時

- ・下書きをグループで読み合い、工夫した点や改善点を交流する。

第五時

・ 前時の交流を生かして清書する。
・ 交流場面や完成した新聞から学びを振り返る。なお、新聞は廊下に掲示し、他のクラスの作品も見られるようにした。

3

①未

テ 交流、で暮 きな 探つ

【生徒が取り上げたテーマ】

- ・地域特有の食べ物やその名前
 - ・道路や信号、タイヤなど、交通について
 - ・言葉や言葉の使い方
 - ・屋根や窓、玄関など、建物の工夫
- 「衣」に関わる冬支度について

② 広く情報を収集する

情報収集のために、学校図書館を利用する時間を設けた。今回のテーマでは、社会科学や産業の棚へ足を運ぶ生徒が多かった。図書館に足繁く通う生徒でも、文学のコーナーにしか行かないことが多い。また、図書館にほとんど行かない生徒の中には、文学以外の本も所蔵されているということを初めて知った者もいた。図書館で事典類を初めて手に取り、それらが情報収集に役立つことを実感している生徒もいた。

③新聞の構成を活用する

今回の新聞では、一つの記事の字数を二百字から四百字程度に設定した。この字数は、調べた複数の情報を組み合わせるのに適している。

重要度が高い記事は、見出しが大きく字数も多いこと、見出しは記事の要約となることなど、実際の新聞の構成は、情報伝達の工夫を学ぶのに適している。部分的に記事を入れ替えることが可能なことも、新聞

溝上先生が見る
社会生活へ
つなげるポイント

実践では、情報の収集、構成といった個人学習だけでなく、他者と議論や助言をし合うなどの協働的活動も組み込まれています。このようにバランスよく個人的・協働的な学習を行っていくことが重要です。本実践が興味深いのは、身近な他者(家族)に取材をさせているところです。国語の授業では、登場人物や書き手といった「他者」の気持ちや考えを理解する、共感するといった学習が、小学校以来定番のものとなっていますが、生徒にとってその他者は非日常空間の他者であることが多いといえます。身近な他者への取材はその「他者」を、生徒にとっての日常空間へと一気につなげます。

北緑新聞

向陵中學校
2年1組

北の混交林

五月上旬北海道で
花が同時に開花す
る。本州では梅はさ
らふしあとに桜がさ
く。だが、これほどい
うことばうらうか。これ
に反して、北海道の気候
と花の性質が関係して
いる。梅は冬の休眠が浅
いため、三月下旬に凍
土が融し三月下旬から
花を盛につく。一方

桜は、冬、長い冬期が
続く。休眠打破にさ
かたむける。これは一
時的に休眠を脱して、そ
の間に花を開く。その
休眠は、樹質で、そ
の間に開花する準備が
できてしまつた。そ
して温かくなるとさ
いふことが、北海道
に、春風が吹くといふ

梅よりは休眠が浅い。北
海道では休眠打破になり
一頃に開花する。さ
うして桜は梅よりも
梅よりは休眠が浅い。北
海道では休眠打破になり
一頃に開花する。さ
うして桜は梅よりも

北海道の休眠は、針葉
樹と広葉樹とで、花

北

森林の広さ

るも約八七平方キロメートルある。北海道の自然は雄大な広さを感じており、全国一位である。これは、なほみかである。それと同時に、人間も森林に支えられて生きていくことを、忘れてはいけないのだ。

身近な変化

は昔は北海道にはス
てゐるようだ。対策
をとりべきなのは、

世界遺產

二〇〇五年和歌県島が日本で三番目に世界自然遺産に認定された。今もなお自然そのものの姿で維持されており、野性の天然記念物や希少種も生息している。千二百五十千六百メートル級の山々が連なり、その山々は毎のすそを

編集後記

広大な自然は北海道の魅力である。保護をしなければという思いがより一層強まっ

▲生徒が作った新聞の例

ならではの利点である。

④ 清書の前の交流を有効活用する

下書き段階での交流により、互いにアドバースをし合ったり、他の人のよい点を自分の新聞に反映したりすることができる。

【生徒のアドバイス（交流の中から）】

- ・下の記事を先に読んだほうが理解しやすいので、上の記事と入れ替えたらいいと思います。
- ・使っているデータより新しいものが市のホームページに出ていますよ。

⑤ 学びの見通しと振り返り

学習の初めに、既習事項とこれからの学習を結び付ける時間を設けた。小学校や中学校一年生で学んだことを思い出し、それがこの学習で使えるかどうか考える生徒がいる。また、教師が新たに説明しようとしたことが、他教科の既習内容である場合もある。このようなことを踏まえて、学習の終